

会 議 録

会議の名称	平成26年度 行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画 第2回策定委員会
開催日時	平成26年11月5日(水) 開会；午後1時30分・閉会；午後3時00分
開催場所	行田市郷土博物館 2階会議室
出席者(委員) 氏名	島田ユミ子 清水泰治 鹿山高彦 小堀 隆 根岸節子 山口高広 寺田幸男 藤井尚子 荻野明子 内田愛三郎 橋本信雄 安部一浩
欠席者(委員) 氏名	相原香保留 根本和雄 阿久津彰男
事務局	竹井健康福祉部長 夏目高齢者福祉課長 岡田主幹 杉澤主幹 春日主査 小出主事
会議内容	(1)計画の構成(案) (2)計画の基本理念と基本目標 (3)日常生活圏域の設定について (4)高齢者保健福祉計画について (5)その他
会議資料	(資料名・概要等) ・行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画構成(案) <b>【資料1】</b> ・計画の基本理念と基本目標 <b>【資料2】</b> ・日常生活圏域について <b>【資料3】</b> ・高齢者保健福祉計画 <b>【資料4】</b>
その他必要 事項	傍聴者3名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	<b>1 開会</b> 開会を宣言
	<b>2 挨拶</b> 島田委員長挨拶
	<b>3 議事</b>
司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の確認</li> <li>・本日の会議は午後3時を目途に終了予定である旨を説明。</li> <li>・要綱の規定に基づき、以降の議事進行を島田委員長に依頼。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍聴人の有無の確認。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍聴人は3名であることを説明。</li> <li>・傍聴人入室。</li> </ul>
	<b>①計画の構成（案）</b>
	<b>②計画の基本理念と基本目標</b>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは議事に入る。資料1、2について事務局から続けてご説明いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の構成（案）－資料1に基づき説明する。</li> <li>・計画の基本理念と基本目標－資料2に基づき説明する。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見等あればいかがいたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題①、②について、この内容で承認していただけるのであれば、拍手をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍手で承認。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次の議題に移りたい。</li> </ul>
	<b>③日常生活圏域の設定について</b>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3について事務局から続けてご説明いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活圏域の設定について－資料3に基づき説明する。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見、ご質問があればいかがいたい。</li> </ul>
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターは市内に4か所あるが、資料には名称等が明記されていないので、どういうセンターがあるかわからない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターを統括するような機能を持つ「中央センター」のようなものを市で設立、運営する予定はないか。市が責任を持って運営するセンターが必要であると思われる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他自治体の状況を見ると、委託の地域包括支援センターのみのところもあれば、市直営と委託の地域包括支援センターがあるところもある。本市では、高齢者福祉課に地域支援担当を設けている。地域支援担当には保健師や栄養士、社会福祉士といった資格を持つ職員もおり、地域包括支援センターの統括的役割を持たせている。専任で市直営の地域包括支援センターを設置するというご意見は提言として受け止めたい。</li> </ul>
根岸委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の、市直営の地域包括支援センターを設置するというご意見に賛同する。担当地域はなくてもいいので、各地域包括支援セ</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員長 事務局	<p>ンターの相談にのってくれるセンターがあってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターでは、要支援者のケアプランの作成だけではなく、虐待の現場に立ち入るなど様々な事態に対応している。時には一センターの職員という立場では担いきれないことも出てくる。現在の体制では市の担当者がどこまで担ってくれるのかわかりにくい。ぜひ、立場を同じくして共に動いていただきたいという思いがある。</li> <li>・根岸委員のご意見について、事務局からはいかがであろうか。</li> <li>・個別のケースには様々な相談があり、各地域包括支援センターでは難しい対応を迫られることがあることは理解している。一方、法律の流れでは、地域包括ケアとしてセンターの役割及び機能の強化が期待されている。毎月の定例会議などを通じ、良い方向で運営していきたいので、ご理解願いたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかのご意見はいかがであろうか。特になければ、議題③について承認の決議をしたい。</li> </ul>
根岸委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の中の地図は、地域包括支援センターを明記する形で修正すると理解してよろしいだろうか。</li> <li>・第3回委員会で提示する「地域包括支援センターについて」の項目の中でわかりやすく提示したい。しかし、地図に載せるかどうかも含めて、表示の方法については検討させていただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な角度からみた建設的なご意見をいただいた。このように遠慮なくご意見を述べていただきたい。資料の修正については、次回に期待したい。そのほかについて特にご意見がなければ、議題③についての承認を賜りたい。</li> </ul>
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍手で承認。</li> <li>・では、次の議題に移りたい。</li> </ul>
委員長 事務局 委員長	<p><b>④ 高齢者保健福祉計画について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4について事務局からご説明いただきたい。</li> <li>・高齢者保健福祉計画について一資料4に基づき説明する。</li> <li>・事前に資料を送っていただいているが、耳慣れない言葉も多いので、ご質問等があればいただきたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症対策も重要だが、認知症にならないための予防についても積極的に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防策についての研修や講座について、具体的にご紹介いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画に入っているのは各公民館の高齢者学級で、その中で「脳を活性化させよう」というテーマの講座がある。この内容の講座は来年度からさらに増やしていきたい。公民館から地元の人たちに声をかけると、効果が大きい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会の「いきいきサロン」では、体操や振り込め詐欺防止など、認知症だけではなく様々なレベルでの予防策を展</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
安部委員	開している。高齢者の家族の方の関心も非常に高く、具体的な相談が増えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市報で認知症サポーターの募集がかかっているが、それ以外に公民館や地域包括支援センターでのサポーター受講者、キャラバン・メイトの受講者については、市に報告は上がってきているだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>“地域で認知症に関する講座を開きたい”と市に相談があれば、講師を調整して行ってもらうこともあるし、市が用意した講座メニューを受講していただくことも可能である。市に相談していただければ、色々な対応ができる。</li> </ul>
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急通報システムについて。高齢者二人の世帯が緊急通報システムの申請をしたが、独居が条件とのことで申請が却下された事例がある。夫婦のどちらかが病気等で、もう一人が生活機能を支えなければならないという状況であれば、システムを利用できる条件に加えてもいいのではないだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線について、認知症の高齢者が行方不明になってしまった事例で、午後7時台に警察に連絡したところ、この時間帯では遅すぎて防災無線での放送はできないということがあった。うるさいという市民の苦情もあるかもしれないが、放送の回数がさほど多くないのであれば、認知症行方不明者の場合には安全性を考慮して遅い時間でも対応していただけないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急通報システム利用の条件について、「虚弱な」という条件を加えると健康な人が対象外になってしまう。実際にグレーゾーンの方が多く、申し訳なく感じているのだが、全体を考えると対応に苦慮している。なるべく生活の質が上がるよう、応えられる範囲で努めていきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線について、行方不明者に関する放送回数は少ないが、熱中症注意など全般的な放送回数は多い。夜遅い時間帯の放送に関しては、この場では回答が困難である。</li> </ul>
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線放送の可否は警察と市のどちらで決定しているのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>申込先は警察だが、その先の放送に関する判断については、この場では回答が困難である。後ほど確認したい。</li> </ul>
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の専門家や地域包括支援センターの職員など、現場の人の意見を最大限参考にしていただけないだろうか。障がい者福祉の現場も含めて、制度の条件に合わなくても安全な状況が確保できないというケースは少なくない。そうした場合に、専門家や現場の意見を聞くということは非常に重要であると考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の担当から問いかけをして各機関で確かめ合って、行田市流の対応をお願いしたい。</li> </ul>
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政的な制限もあると思うが、現状を把握している人の意見を重視していただきたい。</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清水委員や藤井委員のご意見を活かせるよう、連携して取り組みを進めていただきたい。</li> </ul>
小堀委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この委員会の場に地域包括支援センターの方がいるので、現場の情報が計画におおいに反映されるよう、意見を十分取り入れる必要があると思われる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成27年には、団塊の世代がすべて65歳以上になるということだが、何人くらいになるだろうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口の関係については、計画構成（案）でいうと、第1章第2節3項「高齢者人口および要支援・要介護認定者数の推計」に詳細な内容を掲載するので、次回の委員会で提示いたしたい。団塊の世代は、1947～1949年生まれの方で、平成27（2015）年には全員が65歳以上になると認識されている。</li> </ul>
寺田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口関係の資料については、次回委員会において提示されるということであるのでご了承いただきたい。また、地域包括支援センターに携わる方の具体的なご意見を計画策定に活かしたいという趣旨の提言であった。そのほかの委員のご意見もうかがいたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般の市民の方には、老人保健施設と特別養護老人ホームの区別がつかず、家族が利用することになって初めてわかるようになった、ということが多い。行政が出す情報と市民が得る情報の間にはミスマッチがあると思われる。いざという時に市民はどこへ相談していいかわからない、ということも多い。市議会では、地域包括支援センターの中央センターの必要性に関する質問が出ていた。医療保険証はどの医療機関に行っても使えるが、介護保険証は持っているからといってすぐに使えるわけではない、ということが市民にとっては理解しにくいということもある。ただし、今後高齢者がますます増加することは間違いない。そうなると、現在、最も脚光を浴びているのは市の中でも高齢者福祉となる。市民にとっては、家族や自分が介護という問題を迎えるにあたり、現実の最重要課題である。今まで積み上げたものではなく、これからどういう対応をしていかなければならないのか明確に提示していくことが、計画策定にあたって重要である。介護の問題はこれからが大変であることを考えると、脚光を浴びているというよりも過渡期に来ていると言った方がいい。現在は介護費用が10兆円であるが、10年後には20兆円になると言われている。高齢者福祉にかかる費用が大変大きくなっている中、こういった計画を作ることは非常に重要である。</li> </ul>
寺田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全市民がこうした制度をいかに認識し、活用できるかということ、高齢者福祉は過渡期に立っているというご意見であった。</li> </ul>
寺田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもは育ててくれた親を介護したいと思っている。しかし、24時間介護は現実的にみると無理なことである。その現実を</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
荻野委員	<p>見据えて対応していかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、中央センターが必要と考えられているならば、すぐに手を打つべきであると思う。</li> <li>・介護保険では対応できないことをシルバー人材センターに対応してもらって解決することもある。そういったことを市民にわかりやすいように明示していただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービスを提供していた会社が2社から1社になったが、サービスの向上を考えるならば、むしろ複数の選択肢の中から選べるということが重要ではないかと考える。また、どれを選ぶか考えるということが、認知症予防にもつながると思われる。</li> </ul>
山口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しわかりやすく啓発するということと、サービスの選択肢を増やすということに関するご意見をいただいた。</li> <li>・これから団塊の世代がすべて65歳以上にあたり、時代に合った形の改善や取り組みをお願いしたい。施設関係者及び高齢者家族の考え方は10年前と比べて変化している。行政が積極的に取り組んでいただければ、我々施設関係者も応えていきたいと思う。また、福祉の専門家の意見も十分に参考としていただきたい。</li> </ul>
内田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアクラブは現在過渡期を迎えている。会員数は減少しており、20年前には60歳だった人も現在は80歳になっている。以前から、自治会につき1つのシニアクラブを作ってほしいとお願いしてきたが、なかなか困難である。現代の社会では隣近所のつきあいも希薄になり、高齢者にとっては社会の情報が入りにくい状況である。シニアクラブのような会があるから高齢者も集まりやすいと思う。シニアクラブも頑張っているので、どうかご協力をお願いしたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから高齢者がますます増えるので、シニアクラブの会員が倍増することを期待する。</li> </ul>
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は健康大学の1期生である。健康大学では、上野村に行ったり給食センターを見学したり、様々な活動があって大変勉強になった。高齢者だけを対象としていないので、高齢者保健福祉計画に入っていないと思われるが、実際の受講者は65歳以上の人が大半である。したがって、健康大学についても計画に掲載してもよいのではないかとと思われる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね意見が出揃ったので、ここで承認の決を採りたいと思う。本日の議題すべてに関し、承認であれば拍手をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍手で承認。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の会議におけるご協力に感謝する。本日予定されていた議事はすべて終了したので、進行を事務局にお返しする。</li> </ul>
事務局	<p>⑤その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会開催予定は5回で当初からの変更はないが、内容について変更がある。「介護保険事業量の推計について」は第2回委員</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	<p>会で報告する予定だったが、第3回委員会での報告に変更させていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回委員会の日時は、12月24日午後1時30分から開催する予定である。詳細については後日あらためて通知いたしたい。</li> </ul> <p><b>4 閉会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の資料について、気づいた点等があれば事務局にご連絡いただきたい。</li> <li>・ 以上をもって本日の策定委員会を閉会する。</li> <li>・ 本日はありがとうございました。</li> </ul>